

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>それぞれの児童の心のあやにふれ、率直な自己評価がされている。例えば、子どもの成育歴を深く読み取り、子どもとじっくり話し合う機会や関係作りに力を入れたいと考えながら、一方で「子ども自身がすべてを言っているかは定かでない」とか「話をしない雰囲気だと思春期になるにつれ大きくなり子どもの気持ちをつかむ難しさ」への悩みなどが吐露された。そのなかで、常勤の心理学専門の職員もふえたことを踏まえ、子どもの気持ちをくみとる基本を施設全体としてとりあげ、一歩いっぽ前進することを期待する。</p>	
(2) 食生活	第三者 評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>訪問日のお昼のマカロニ料理は、雨降り肌寒い気候のなか、冷めて山盛り調理ずみのものが目に見えるところにあった。また、アンケートの「食事の時間は楽しみか」という問いに、65.2%の答えが「いいえ」なので、食事の内容を含め、検討されたい。</p> <p>帰省する時を中心に新しい服の購入がされている。着るまでつるしたままという衣服管理も見られたので、年齢に応じた声かけなど、支援内容を検討されたい。</p> <p>室内は明るく、木製の重厚なテーブルと椅子が配置され、温かみを感じた。</p> <p>草刈りなどの環境整備については、職員と子どもが行うとともに、ボランティアの力を借りたいというアイデアが職員から出されているので、検討を進められたい。</p>	

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>布団、シーツなどの天日干しや洗濯は定期的に行われている。身体の健康、自己管理については職員の声かけによる支援が行われている。</p> <p>嘱託医による定期的な健康診断、検便検査、服薬管理なども行われている。</p> <p>性教育について現在までの取り組みは低迷しているように感ずる。心理士による、子たちの絵や写真入りの日常記録を見ることが出来た。この記録を周辺スタッフとの会話のなかにも取り上げ積極的な支援につなげられたい。</p>	

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	b
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>食器などは共有だが、箸や湯呑は個人所有となっている。茶話会や勉強のときはマイコップ使用となっている。部屋への持ち込みは高価なものではなく愛着のあるものを持ち込み、個人所有とできるようになっている。休日は地域のスポーツ少年団や習いごとなど、自由に参加している。施設の自治会であるかやの実会や地域の子ども会などで係りを決め、前期・後期に反省会を開いている。子どもたちのより主体的な活動を期待する。</p>	

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>小学生は職員で対応されている。中学生には高校進学に向け学習塾へ通うなどの支援が行われている。部活は吹奏楽やバレー部などでの活躍がみられる。年齢に応じて、新聞配達やコンビニのアルバイトなど選択肢はあるが、積極的な開拓はされていない。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	b
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>問題を抱えている子への支援について認識はあるが、タイムアウトの場所などの確保がなされていないので、改善に期待したい。心理的ケアが必要な子どもに対しては、心理士の積み重ねによる丁寧な指導が推察できた。今後に期待できる。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>情報収集が行われつつあり、措置変更や施設入所について児童相談所と連携して対応している。また、年1回集いの会を開き、退所した子どもたちと情報交換できる機会をつくっている。家庭引き取りについて、児童相談所等と連携し、引き続き個々の事例に合わせた支援を期待する。</p>	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>多くの問題をかかえながらも、各家庭に対し学校行事や懇談会への出席依頼の連絡を取られ、帰省に向けて家庭訪問したり、親子が話す機会を持てるよう努力がなされている。盆・正月の帰省時には生活調査なども行き、家庭復帰への再スタートが切れる支援も行われている。</p>	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定		第三者 評価結果
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	c
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	c
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	c
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録		
①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>ケース記録は適正に記録され、保管庫で保管されている。子どもの状況等に関する情報は、リーダー会議・養護会議・(ケース)報告会議等を定期的に開催して共有している。年度当初のアセスメントは行っているが、年度の間見直しがされていなかったり、ケース会議を経ないままアセスメントが行われている。また、自立支援計画の策定等についても同様であるので、両者ともに手順を定め、実施されることを期待する。</p>		

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③	子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮		
①	子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
②	職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>管理規定で子どもを尊重した養育・支援の実施を明記している。思想や信教についてはフランクで、自由を保障している。職員と子どもがグループ単位で茶話会を開催するなど、工夫を凝らしながら意向把握に取り組んでいる。子ども自身の生い立ち等について、適宜伝えていくことを一層期待する。プライバシー保護の規定は整備されているが、例えば、プライバシー保護遵守の誓約を職員から徴すなど、職員への周知徹底を更に促す取組を期待する。</p>		

		第三者 評価結果
(3)	入所時の説明等	
	① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
	② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
(4)	権利についての説明	
	① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)	子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
	① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
	② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
	③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	c
(6)	被措置児童等虐待対応	
	① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7)	他者の尊重	
	① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 常勤の心理士を配置し保育士や児童指導員等と子どもの中間に立って、相互の理解促進に努めるなど、相談方法や相談相手を選択できる環境等を整えている。就業規則で体罰の禁止を定めている。入所時にパンフレット「私は合わせです」や苑だよりで子どもや保護者に施設の生活等について説明しているが、説明内容を更に工夫して実施することを期待する。子ども等からの苦情について対応マニュアルの整備を期待する。		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
	① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
	② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	b
	③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	c
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 事故等緊急時における関係機関等との緊急連絡網を整備している。火災避難訓練等は地元消防署と連携して定期的実施している。子どもの安全を脅かす事例の収集や要因分析等に対応するため、例えば、ヒヤリハット事例の収集をプロジェクトチーム（幼児グループ・年長児童グループ等）で試行実施するなど、事故防止対策の組織的な取り組みを期待する。		

6 関係機関連携・地域支援

		第三者 評価結果
(1)	関係機関等の連携	
	① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	b
	② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
	③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)	地域との交流	
	① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
	② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3)	地域支援	
	① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	c
	② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>学校や児童相談所及び入所児童に係る市町村等と連携を確保している。集いの会には毎回外部から500人程度の参加があり、また、地域の子ども会やスポーツ少年団に参加するなど積極的な取り組みをしている。近隣の市とは子どもを施設で受け入れる一時保護契約を整備している。なお、地域福祉ニーズの把握は、今後の研究課題として中・長期的な取り組みを期待する。</p>		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
	① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
	② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
	④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>「自立に向かって育ち合う仲間づくり」を基に、将来社会人として心豊かな子に育てることに、全職員一丸となって、真剣に取り組んでいる姿が見受けられた。</p> <p>研修計画の中で、年8回予定されていた「情緒的経験の活用」研修が途中で休止されていることは残念。個別の教育や職員がもつ技量等を評価分析し、その結果に基づいた研修計画・教育計画を策定されることが資質向上につながると思われる。スーパービジョン体制の整備をされたい。</p>		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	b
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	b
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>理念2項目や基本方針3項目、25年度基本目標などが明文化されている。これらが社会的養護の使命や目指す方向、考え方として理解できるが、これらの「柱」が職員一体となって行動規範となっているかについては懸念がある。</p> <p>法人60年の歴史を通して地域の中で築き上げてきた信頼と実績を基に、今回県に提出された計画書の実現に向けた取り組みに期待したい。</p> <p>創始者理念は今でも生き続けており、地域社会で認知されていることは周知の事実である。広報紙「かやの実」の紙面を通じて、施設長としての新年度に向けての方針や姿勢等を施設内外に表明されることを期待する。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	c
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	b
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	c
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	c
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>外部監査は公認会計士事務所で行われている。</p> <p>施設長の就任は平成23年4月からであり、今後の指導力の発揮に期待したい。</p> <p>施設長の提案や具体的取り組み姿勢、個人面談後の評価・分析などが養育や支援の質の向上につながっているか課題として感じる。業務は職員を信頼して養育・支援を任せていると見受けられる。</p> <p>施設長の自己評価の中で記載されている「人事、労務の面から業務の効率化に対する分析を実施する体制を整備する」取り組みを早急に行い、「拝み合う心から、わかり合い、助け合い、磨き合う」の理念で、本施設が社会的資源として今後も引き続き貢献されることを期待する。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設が目標とする養育・支援のプロセスで、施設の質の向上のための人材は確保されている。</p> <p>子どもと保護者で直面する困難なケースが多々あり、苦慮されている姿も見受けられるが、職員はとてもしっかりと、訪問調査の聞き取りのなかで、副施設長から「職員間は非常に仲がよく、互いに理解している」とのコメントがあった。</p> <p>職員処遇は福利厚生や健康管理において積極的に取り組まれている。</p> <p>実習生の受け入れも、目的をもって積極的であるが、事故等の場合の対応について明文化されていない。また人事考課の実施に向けて検討されたい。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	c
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>平成24年度に自己評価が実施されているが、その結果の分析やまとめは職員に知らされていない。</p> <p>施設長から自己評価の改善点として、「支援の標準化に集中した検討会議をもち実施する」と記載されており、次年度からの実施を期待したい。</p> <p>子どもへの援助力の向上で、家庭のよい面を尊重し、家族との協力関係を構築するSOSA（サインズ・オブ・セイフティアプローチ）による見直しや検討を通し、さらなる質の向上と子どもの養護や支援が充実されることを期待したい。</p>	